

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	福岡県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	北九州市立 湯川小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	3	3	3	3	0	20	24
児童数	136	124	113	90	100	103	0	666	

研究の概要

1. 研究主題

<p>学ぶ喜びを味わわせ、学力の向上を図る教育活動の創造 ～個に応じたきめ細かな指導の充実を図る教科教育の工夫・改善～</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1～6年(全)算数	児童の実態を考慮し、習熟の程度に差が出やすく、少人数指導によるきめ細かな指導の成果が期待できるため
1～6年(全)国語	聞く・話す・読む・書く・言語事項など基礎的基本的な内容の確実な定着を図り、学力全体の向上に必要なため
5, 6年 理科、社会科、家庭科、音楽	担任がもつ専門性を生かし、同学年内で交換授業を実施することで、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図ることができるため

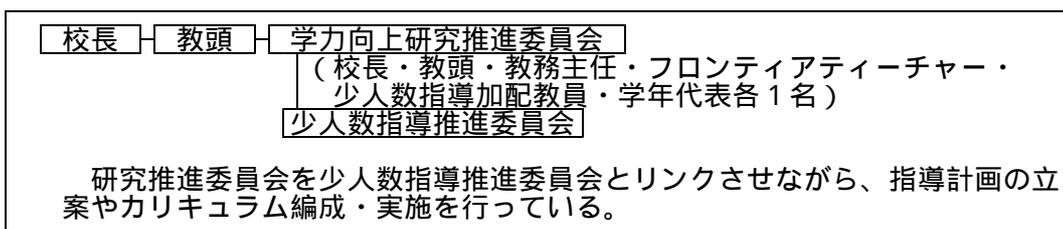
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ～学ぶ意欲を味わわせるための指導法の工夫・改善 研究の見通し 特に少人数指導、交換授業などの指導法を研究し、個に応じたきめ細かな指導の充実を図る。 研究の内容・方法 「学力」や「学ぶ喜び」について共通理解し、全学年が2つの実証単元を設定し、実践研究に取り組む。その成果を授業公開し、普及していく。</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ～評価規準を活用し、指導に生かせる評価方法の工夫・改善 研究の見通し 日常の授業改善に生かせ、個に応じる指導に生かすことができる評価方法を明らかにする。また、家庭学習プリントの活用を通して学校と家庭の連携をさらに密にしていく。 研究の内容・方法 全学年が2つの実証単元を設定し、評価カードや座席表、印象記録を記す評価表を活用していく。実践交流会を開催し、他校への普及に努める。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ～学ぶ楽しさを味わわせ、確かな学力を育てる教材の開発 研究の見通し 指導法の工夫・改善、指導と評価の一体化、学力向上に関する学校と家庭の責任の共有、学習習慣を身に付けられる継続的な取組、交換授業の充実など、総合的な取組を通して実践研究を進め、成果を明らかにする。 研究の内容・方法 全学年が2つの実証単元を設定し、一人一人の確かな学力の向上に向けた継続的な取組をする。実践交流会を開催して成果を公にする。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

児童の学習意欲を引き出すために、問題(課題)との出会わせ方を工夫したり、個の実態に応じた適度な抵抗感のある教材を選ぶようにした。その結果、児童の学ぶ意欲に向上がみられ、「わかった、できた。」という学ぶ喜びにつなげることができた。

評価規準の明確化を図り、振り返りカードや印象記録を関連付けて支援を工夫した。その結果、児童一人一人が成就感を味わいながら学習を継続できた。

家庭学習プリントの活用により、児童の学習習慣を形成していくために、保護者の励ましや賞賛が有益であることが確認できた。子育ては家庭が中心になって行うもので、学校とともに責任を共有するという考えが広がってきている。

交換授業を実践することにより、各人の教師がもつ特性を生かした、教材研究や準備ができ、きめ細かな指導を実施できた。その結果、基礎的・基本的な内容の確実な定着につながった。

保護者へのアンケート結果より(平成15年9月実施)

Q 1年前に比べて、お子さんの学習に対する意欲や態度はどうですか

とてもよくなってきた	13%
少しよくなってきた	41%
あまり変わらない	42%
以前よりわるくなった	4%

(保護者の自由記述より)

- ・ 苦手と感じている算数など、受動的な態度で学習をしていたが基礎的な計算を繰り返すうちに、少しずつ自信をもってきた様子で、意欲が出てきたと感じます。
- ・ 昨年は、分からないことも手を挙げるのが恥ずかしいと言って、分からないまま帰宅することもあったけど、今、とても勉強が楽しいと言っています。好きな教科が増えたのがんばっています。
- ・ 子どもの口から「算数が楽しい。」などの会話が生まれた。

2. 今後の課題

日常的に指導と評価の一体化を図るために、誰にも取り組みやすい評価、すなわち息長く活用できる評価法をさらに工夫していきたい。

基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための教材や個の実態に応じて準備する教材の精選・開発をしていきたい。

学力等把握のための学校としての取組

CRT(観点別到達度学力検査)

- ・ 目的～観点別に習得状況を把握し、指導計画の改善や個別指導の資料に活用する
- ・ 実施内容～2～3年生(国語、算数)
4～6年生(国語、算数、理科、社会科)
- ・ 実施時期～毎年、5月頃

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 「福岡県・北九州市学力向上フロンティアスクール実践交流会」
- ・ 日時 平成15年10月31日(金) 14:15~17:00
 - ・ 場所 北九州市立湯川小学校
 - ・ テーマ 「学ぶ喜びを味わわせ、学力の向上を図る教育活動の創造」
 - ・ 対象 市内及び市外教職員、保護者
- 当日は、市内教職員をはじめ、県外からも含め150名以上の参加者であった。算数(6年)、国語(3年)の少人数指導や5年の交換授業を実施し、他校の少人数指導担当の教員など多くの先生方に子どもの姿を通して取組の一端を公開した。その後、研究協議会を開いて、フロンティアティーチャーから本校研究の概要の発表をして、協議の中で質疑応答を受け、福岡教育大学教授の大坪靖直先生に指導助言をいただいた。
- 来年度は、10月中旬に開催の予定である。
- フロンティアティーチャーは、市内の他のフロンティアスクールのフロンティアティーチャーと研修をもち、情報交換をして成果と課題を出し合い、成果を普及し合ったり学校に持ち帰って生かしたりすることができた。
- 学校ホームページ(<http://www.himawari.ed.jp/yugawa>)に、学力向上フロンティアスクールの取組を公開している。
- 毎月1回発行している「学校だより」で、学力向上フロンティアスクールとしての取組を紹介したり、保護者向けのアンケートの結果を公表したりして、家庭や保護者に広報・啓発している。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7~12学級
 13~18学級 19~24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無